

子どもの運動不足解消のための運動機会創出プラン

アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)を活用した運動遊び促進事業



新型コロナ感染予防のため、子どもたちの遊びやスポーツの場が変化してきました。昨年8月から、子どもの運動不足を解消するプログラムに対して、スポーツ庁からの委託金で7事業を実施しました。その中で、県体育協会が直接実施した「みんなでACP富海」を紹介します。

12月12日(土)の午後、富海小中学校の体育館を会場に、39人の子どもたちと8人の指導者・スタッフが集まって、ACPを体験する教室を開催しました。

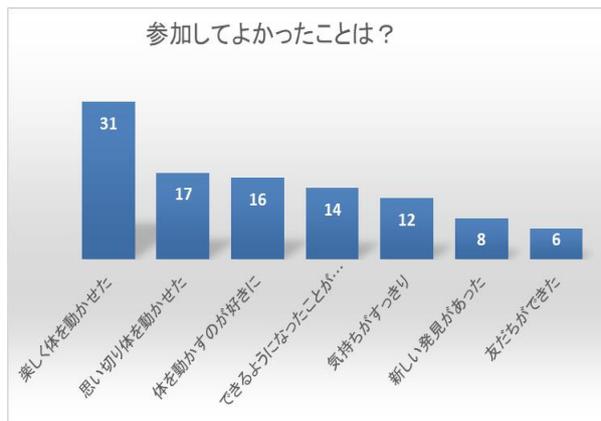
アイスブレイキングとして、「おーちた おちた」をしました。リーダーが、「何が落ちてくるかな？」と問いかけながら、子どもたちは、リンゴやネコなどを想像して受け止めていました。はじめは、想像ができず、戸惑う子どもが見られましたが、カミナリの時にはおへそを押さえたり、天井が落ちてくるのをみんなで受け止めようとしていたりしていました。

その後、フープで遊んだり、新聞紙ボールを投げたり、身近なものを使って遊べることを体験していました。このほか、グループ対抗での遊びとして「宅配便」「ピタッジャンケン」「風船列車」などで、楽しんでいました。

右のグラフのように、多くの子どもたちが「楽しく体を動かせた」と回答しており、所期の目的を果たせたと思われました。グループ対抗での遊びでは、勝敗にこだわることもなく、みんなでボールを置き、それを回収できたことに楽しさを感じる事ができたように思われました。

当初は、50人近くの参加申し込みがありましたが、コロナの影響で39人の子どもたちの参加となりました。

「次回、このような教室があれば、参加したいか」という問いに対して、100%の参加希望が出され、好ましい結果となりました。子どもの様子を参観していただいた保護者が20人を超えており、非接触型や家庭でもできる遊びを意識して紹介したので、家庭での遊びの一つに加えてもらえるのではないかと



と思われました。

1名の講師と7名のスタッフ、計8人態勢でのACPとなりました。スタッフもACP教室を何度も経験してきており、簡単な役割分担で、お互いをフォローすることができていました。2時間半という長めのACPでしたが、幼児があきることなく、最後まで元気に頑張った姿が印象的でした。

わくわく(輪く和く)通信

山口県生涯スポーツ推進センターだより

Vol.38

2021年

2月



令和2年度 第2回創設・育成研修会

標記研修会が、2月5日(金)山口市[カリエンテ山口]・6日(土)下松市[ほしらんどくだまつ]で、実施されました。

講演では、スポーツの社会的意義や価値の再確認、総合型クラブの設立効果や影響、最大のミッションについて、各クラブのミッション・ビジョンの再確認、SDGs(持続可能な開発目標)についてワークの時間も取り入れながらお話していただきました。

総合型クラブの設立効果・影響

- スポーツ環境の充実・活性化
スポーツ実施機会の提供 競技力向上
スポーツ団体との連携・協働 など
- 個人にとっての効果・影響(日常生活の変化)
スポーツ実施率の向上
健康づくり、生きがいづくり など
- 社会にとっての効果・影響
ソーシャルキャピタルの醸成
教育に関する効果 経済的な効果 など

ワークの時間には、自クラブのミッション・ビジョンについて今一度振り返る時間が設けられました。クラブから、ミッションは『スポーツ及び文化活動をすることにより住民のコミュニケーションを図る』『地域を元気に、子どもたちの健全育成、トップアスリートを育てる、笑顔の花を咲かせる』、ビジョンは『〇〇地区の元気拠点!』『すべての方が笑顔で過ごせる時間と空間を提供すること』などの発表がありました。

総合型クラブは、ニーズに応える、形を変えることができることが魅力のひとつであり、クラブの価値を高めていくということは持続可能なクラブになり、結果として持続可能なまちづくりにもつながっていくとお話していただきました。



内容

◆講演

「スポーツを通じた持続可能なまちづくり」
講師:徳山大学 准教授 瀬尾 賢一郎 氏

◆山口県総合型地域スポーツクラブ

認定システムの説明

総合型クラブの最大のミッション

地域スポーツ
の振興

人々の豊かな
スポーツライフ
の実現

実現することで…
地域住民の生活満足度の向上
コミュニティの形成、地域力の向上につながる

共益的な活動ではなく『**公益的な活動**』を

公益的な活動を展開するために…

ニーズやウオンツ(欲求)の把握

定期的に地域住民へアンケートを実施しましょう!

時代によって変化するニーズやウオンツの把握
地域に密着し、広く開かれた組織としての定着
対象地域との関係を重視した取組

クラブの価値が高まる

持続可能なクラブ ⇒ 持続可能なまちづくり

SDGs(エスディーゼーズ)については、知らないクラブも多かったようです。SDGsとは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことで、17の目標と169のターゲット(達成基準)から構成されています(詳細は外務省HP参照)。自クラブの活動の多くが、SDGsの目標に当てはまることが確認できたようです。また、クラブのHP上にSDGsの目標に取り組んでいることをアピールすることで、企業との連携やバックアップしていただける仕組みにつながることを教えていただきました。

山口県総合型地域スポーツクラブ認定システム

創設・育成研修会で初めて詳細な説明をさせていただきました。この認定システムは、総合型クラブの認知向上や公益性の確保等を目的としています。また、瀬尾先生からお話がありましたが、「クラブの価値を高めるための仕組み、周囲に対して自クラブの取り組みをPRする手段」であると捉えていただければと思います。令和3年4月1日から開始ということで短期間での申請となり、ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

以下、研修会での質問を掲載しております。その他、ご質問等は県スポーツ推進課(Tel083-933-2435)または県体協へご連絡ください。

認定システム Q&A

Q. 山口県総合型地域スポーツクラブ認定システムの開始はいつからですか？

A. 令和3年4月1日から開始いたします。

この案内を設立クラブ及び準備団体へ2月15日に通知しております。市町スポーツ主管課へ3月12日までにご提出をお願いいたします。

Q. 国の登録・認定制度と山口県総合型地域スポーツクラブ認定システムは別の制度でしょうか？

A. まったく別の制度であり、山口県総合型地域スポーツクラブ認定システムは、山口県独自のシステムになります。

Q. この認定システムに登録料等は発生しますか？

A. この認定システムにおいて、新たに登録料等の徴収はありません。

Q. 準備団体は、県体協の助成金は活用できないのでしょうか？

A. 準備団体として申請し、認定された際には助成金を活用することができます。
(準備団体認定要領(認定)第5条4項に記載)

総合型地域スポーツクラブ 訪問日記

クラブ名	教室名	訪問日	訪問者
一般社団法人 菊川スポーツクラブ	地域体験教室 「菊川で学び、活躍する日」	1月20日(水)	岡村 睦美

今回は、(一社)菊川スポーツクラブの地域体験教室に伺いました。この教室は、菊川中学校から依頼があり、今年度新たに開始された教室です。年10回計画し、どの回も“体幹”をポイントにしており、これまでに、体幹づくりトレーニングやヒップホップダンス、ミニトランポリンやバドミントンなどを実施しています。今回は、菊川町にあるあさひ整骨院の原 勇志(ハラユウジ)院長を講師に招き、ストレッチ教室が行われました。菊川中学校の生徒や指導者11名が参加し、約1時間半学びました。初めに原院長から、怪我をする原因として、筋肉の使い過ぎや筋肉の使い方が間違っていることであることや、試合前のストレッチは長時間しすぎない方がパフォーマンスの向上につながり、試合後やお風呂上がりなどは時間をかけてストレッチをする方がよいことなどのお話がありました。その後、様々なストレッチを行いながら柔軟性を確認しました。足首、股関節、肩甲骨など自身の硬い箇所や左右で動きのスムーズさが違うことなどを知ることができたようです。柔軟性の高い生徒が多く、原院長はとても感心されていました。



すべてのストレッチを終え、立位体前屈の変化をみると、ストレッチ前より床に手がしっかりついている生徒もみられ、改めてストレッチの大切さを実感できたのではないかと思います。習ったことを継続して実施することで、怪我の予防やパフォーマンスの向上につながっていくことでしょう。



人がつながる 人でつながる 人がつくる

地域に根ざしたクラブの経営や活動を支えるのは人…このコーナーでは、コーディネーターがインタビューをして、総合型地域スポーツクラブにかかわる人を紹介していきます。

美川スポーツクラブまめな会 会長 田中英雄氏

今回は、「美川スポーツクラブまめな会」の会長である田中氏にお話を伺いました。美川スポーツクラブのキャッチフレーズは「まめで 楽しく 仲間とスポーツ!!」です。

美川町ってどんなところですか？

2006年（平成18年）に岩国市に合併しました。県下有数の名流錦川が町内を流れており、川に沿って集落が点在しています。昭和30年には約8,700人いた人口は年々減少しています。これは、鉱山の相次ぐ閉山が大きな要因とみられ、また、少子高齢化や若年層の都市への流出に歯止めがかかっていないこともあり、現在では約920人となっています。自然や歴史的資源には恵まれており、昭和9年に岩谷観音窟とその周辺、昭和11年に南桑かじかがえる生息地として天然記念物に指定されています。鉱山跡地を活用したレジャー施設「美川ムーバレー」は、洞窟を探検するアトラクションで、観光スポットになっています。



クラブ設立や会長となった経緯は？

岩国市への合併に伴い、美川町体育協会が消滅してしまいました。「地域スポーツはどうなるのか？地域の子どもたちも減少していく、このままでいいのだろうか？」こんな声が聞こえ始めた頃、総合型クラブのを知り、美川町でもこのようなクラブがあったらいいのではないだろうかと思いました。美川町の体育指導員が中心となり、教育委員会と共同で、また、地域の方とも知恵や力を出し合い、クラブの設立をすることができました。私自身、美川町体育協会の会長をしていたこともあり、クラブの会長もさせていただくことになりました。あれから早10年以上が経ちました。

クラブの今後について

健康に関する情報の提供や健康づくりを促進する教室・イベントを実施し、町民への健康管理意識の啓発や積極的に健康づくりに参加できるような環境づくり、また、いろいろな人との交流ができる場所づくりをできればと考えています。

おしゃれで笑顔の素敵な田中会長。いまだ現役で小学生の水泳指導をされているそうです！

宇田ふれあいクラブ 会長 岩本清氏

今回は、阿武町宇田郷地区で活動する「宇田ふれあいクラブ」の岩本会長にお話を伺いました。宇田ふれあいクラブは、グラウンドゴルフ・ニュースポーツ・銭太鼓などの定期教室やウォーキング・スリッパ卓球大会・文化フェスティバルなどのイベントを実施し、地域の皆さんと楽しく活動しています。

コロナ禍の中で活動はいかがですか？

毎月開催している役員会が、4月から開催できなかつたり、イベントが例年どおり実施できなかつたりしています。また、詩吟やカラオケといった飛沫感染となり得る定期教室は現在も休止となっています。

引き続き、屋外の活動を中心として、コロナ対策を講じながら、できることを実施していきたいと思っています。



総合型クラブを運営して感じることは？

県から総合型クラブの設立を勧められ、他県のクラブへ視察に行ったことがありました。しかし、大規模なクラブで、宇田郷地区とはあまりに状況がかけ離れており、設立することにためらいを感じたことが思い出されます。そこで、県主導ではなく、自分たちで話し合いを進めていくことにし、宇田郷地区と同じような環境のクラブを視察することで、人口が少ない田舎においてもクラブを運営できることを教えていただきました。以前よりも会員数が減少しましたが、現在も地区民の2割に会員となっていており、クラブが地区民にとって、楽しむ場やふれあいの場になっているのではないかと思います。振り返ると大変なことも多くありましたが、結果として設立して良かったと感じています。

新たに取り組んだことはありますか？

人数不足によりソフトバレーボールの活動を止め、新たにニュースポーツを取り入れました。ルールも技術も難しいものではないので誰もが参加でき、大変盛り上がっています。高齢者が多い地域ですので、この世代を中心とした様々な内容を提供できるように今後も考えていきたいと思っています。

照れながらも写真撮影に応じてくれた岩本会長。クラブ設立までのいろいろな苦労話を聞かせていただき、大変貴重な機会となりました。

【生涯スポーツ推進センター問い合わせ先】

央部生涯スポーツ推進センター（山口県体育協会）
TEL 083-933-4697 FAX 083-933-4699